

令和3年度 第2回多文化共生施策懇話会 議事要旨

日時	令和3年10月29日(金) 18:30~20:15
場所	市役所 新館3階 会議室3AB
出席者	委員：高橋(会長)、阿曾、長山、糸魚川、嶋原、ホアン、柳川 事務局：竹田係長、山本
傍聴者	3名

1. 豊明市の外国人人口について(追加資料)

- ◆ 2013年からの豊明市の外国人人口と国籍別の割合を報告
(委員意見)
- ◆ 分かりやすいので、次回以降もこのようなグラフで提示してほしい(高橋会長)

2. 電話通訳サービスの利用状況について(資料A)

- ◇ 上半期(4月~9月)の課別・言語別利用件数を報告。
- ◇ 電話通訳の使用により、庁舎内通訳の負担が軽減されている点、補助金の活用を報告。
(委員意見)
- ◆ 電話での問合せは減ったと感じる。(嶋原委員=庁舎内通訳)
- ◆ 病院の通訳サービスはないのか。(ホアン委員)
- 愛知県による「あいち医療通訳システム」があるが、利用するかは病院次第。現在豊明市では藤田医科大学のような総合病院のみ対応できている状態。システムの利用には病院側にも患者側にもお金がかかる。
- ◆ 海外では通訳にかかるお金にも保険が適応される。(高橋会長)
- ◇ 生活便利帳の完成を報告。
(委員意見)
- ◆ 何部ずつ印刷したか(長山委員)
- 印刷製本にかかる経費を計算したところ、印刷会社には依頼せず、必要な部数を市役所で印刷することとした
- ◆ 豊明団地にも何冊かいただきたい(糸魚川委員)
- 各言語20冊ずつを目安に郵送します

3. 外国人SOSカードの作成について（資料B）

- ☆ 事務局が作成した案を提示した。外国人が持ち歩きたいと思う内容は何なのか、そもそも外国人がカードを必要としているのかを含め、意見をいただきたい。
(委員意見)

【カードに関する意見】

- ◆ 文字が小さいかもしれない。(長山委員)
- ◆ 財布にカードがありすぎて、困った時に出せないのでは。(阿曾委員)
- ◆ ブラジル人はたくさん文字があると読まない。(嶋原委員)
- ◆ フィリピン人も読まない。せめて言語別に作った方がいい。(阿曾委員)
- ◆ オモテは「外国人専用ダイヤル」、ウラに「日本語が分かりません」と書いたらどうか。(糸魚川委員)
- ◆ 外出先から救急車に搬送されたときに、カードに書かれた情報を見て、自分の家族に連絡が行くような情報を掲載してほしい。(ホアン委員)
- ◆ 言語はいらぬ。絵だけにしたらどうか。(阿曾委員)
- ◆ 「日本人に見せてください」ということがもう少し伝わるように。(柳川委員)

【その他意見】

- ◆ ヘルプカードを参考にしたらどうか。(糸魚川委員)
 - ◆ 「110」「119」が無料と知らない人もいる(高橋会長)
 - ◆ ヘルプカードのようなマークを作るのはいい。靴につけることですぐに気が付く。マークの普及が課題(傍聴者)
 - ◆ 音のでるキーホルダーがいいのでは？押すと「助けてください。日本語が話せません」と音が鳴る。(傍聴者)
 - ◆ シールにして自分のアレルギーが伝わるといい(傍聴者)
 - ◆ キーホルダー、ヘルプカードなどで、アレルギーや持病が分かると助ける側も焦らない。(傍聴者)
 - ◆ もう少しライトな「助けてくださいアイテム」が欲しい。(傍聴者)
 - ◆ 暗い夜でも光るとか、シールやマークで、それだけで分かるように(阿曾委員)
 - ◆ いつ完成する予定なのか(長山委員)
- 予算は来年度になる

4. フード・ギフト事業について（資料C）

☆ 第1回、第2回事業実績と、第3回（12月4日）事業の実施を報告。今回はTIRAの事業と合同で実施する。

（委員意見）

- ◆ 自治センターでフード・ギフト事業とTIRAのイベントを同時に開催するとは思っていなかった。場所が足りないのではないか。（糸魚川委員）
- 11月9日（火）TIRAメンバーと一緒に現場を見に行くので確認する。

【配布物についての意見】

- ◆ お米（パックご飯もOK）
 - ◆ インスタント麺
 - ◆ 調味料（塩、コショウ、油）
 - ◆ 子ども用お菓子
 - ◆ ティッシュボックス
 - ◆ 洗剤、食器用スポンジ
 - ◆ 食べ物と洗剤は別にしてほしい。
 - ◆ いろいろなものが並んで 一人3つ！ パントリー式
 - ◆ まったりっぽく バラエティに
 - ◆ すべての人が納得するものはない。（長山委員）
 - ◆ 自治会に輪投げがあるので、必要であればお貸しする。（糸魚川委員）
- いただいた意見をもとに、予算と相談しながら考えます。

5. 日本語ボランティア養成講座の実施について（資料D）

☆ 事業の実績を報告。今回のような講座は3年間（来年まで）とし、それ以降は講座で発掘した人材をどう教室の活動につなげるかをご意見いただきながら考えていきたい。

（委員意見）

- ◆ 講座に参加した方1名が日本語教室の見学に来た（長山委員）